



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

パレスチナ・カタール：カタールのハマド首長のガザ訪問

10月23日、カタールのハマド首長は、ガザを訪問した。アラブ諸国の国家元首が、ハマースが統治するガザを訪問したのは初めてである。ハマド首長は、シナイ半島のエルアリーシュ空港から陸路、ラファ境界を通過してガザを訪問した。同首長の同地滞在は6時間だった。カタールは、パレスチナに対する政治的、経済的な支援を積極的に行ってきた。今回の訪問に先立ち、カタールはガザのインフラ整備に2億5000万ドルを支援することを表明していたが、ガザを訪問したハマド首長は4億ドルの支援を行うと述べている。

ハマースが統治するガザをカタールの元首が訪問したことは、外交的にはハマースの成果だとされる。西岸のPA側は、今回の訪問がハマースの政治的、外交的な成果となること、アラブ諸国の国家元首によるガザ訪問の先例になること、また分裂を固定化することを警戒している。今回の訪問に先立つ10月21日、アッバース大統領はハマド首長に電話をかけ、分裂の解消をハマースに促すよう要請している。エジプトは、今回の訪問は、エジプトのパレスチナ支援の一環だとした。ハマド首長も、今回の訪問はエジプトによる支援があったとした。米国は、ハマド首長のガザ訪問を批判していないが、ハマースに対する視点は変わらないとしている。

## 評価

ハマド首長のガザ訪問を、ガザ住民は冷静に見ているようだ。サッカー場で予定されていた同首長の演説は、聴衆の集まりが悪く（会場の2割程度）、イスラム大学に場所が変更された。ハマド首長のガザ訪問は、ある意味で突然だったが、カタールは、パレスチナの分裂を解消するための仲介役を果たしてきた。ハマド首長は、ガザのイスラム大学の演説でも、分裂状態を解消するよう要請している。今回のハマド首長のガザ訪問がハマースの得点になるとしても、カタールにはパレスチナの分裂を固定化する意図はないだろう。

カタールは、在外ハマースを政治的に取り込もうとしている可能性はある。シリアのダマスカスを本拠地にしてきた在外ハマースであるが、国内での衝突が激化した後、アサド政権から距離を取った。2012年の春ころまでに、ダマスカスにいた在外ハマース幹部とその家族は、シリアを離れたといわれる。在外ハマースが、シリアの庇護下から離れれば、同時に彼らと

イランとの関係も疎遠になる可能性がある。イランと対抗するサウジやカタルにとって、在外ハマスがアサド政権を見限ったことは、在外ハマス取り込みの大きな機会となる。ハマド首長のガザ訪問は、この文脈で見ることも可能だろう。

在外及びガザのハマースについては、政治指導部のメンバーが変わった可能性がある。2012年5月以降、いくつかのメディアが、ハマースの政治指導部に関する秘密選挙が行われた、ガザのハニーヤ「首相」が新指導者に選出された、在外ハマースのミシュアル政治局長は選挙に出なかったなどと報道している。ハマース、こうした報道について、公式には確認も否定もしていない。報道されているように、次のハマースの指導者がハマド首長を出迎えたハニーヤ「首相」であるとすれば、ハニーヤにとっては、政治的、外交的に自分の存在を示す好機である。

ただ在外とガザのハマースが、国際社会で孤立している現状は、ハマド首長のガザ訪問やハマースの指導部が交代しただけでは変化しないだろう。ムスリム同胞団系の政党が与党になったエジプトとの関係は、以前よりは良好かもしれないが、ハマースが孤立している原因はもっと根深い。ハマースは、イスラエルとパレスチナの和平交渉の結果として可能になった選挙で勝利を得て政権を取った。しかし、ハマースは和平交渉が成立するための前提条件を認める立場を表明していない。交渉の成果は享受するが、交渉の相手は認めず、過去の交渉での合意も承認しないのでは、交渉当事者や関係国が承知しないのは当然である。ハマースは、まだこのご都合主義の自己矛盾状態から抜け出しておらず、ただ沈黙しているだけである。

(中島主席研究員)